9月号 学校だより

令和８年９月１日発行
東京都立中野特別支援学校＋
しいの木分教室
校長　伴　比佐志
https://nakano-sh.metro.ed.jp/

『２学期のはじまりにあたり』

校長　　伴　比佐志

令和８年熊本地震・令和８年８月千葉豪雨により被災された皆様にお見舞い申し上げるとともに、お亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。

自然災害は、十分な予見と対策が重要であると言われます。しかし、最近の自然災害を振り返ると、その被害は想定外の大きさです。千葉豪雨のような都市圏での甚大な被害を、私は想定できませんでした。市原のしいの木分教室も、川沿いのさくら校舎も被害はなかったのですが、油断は禁物と心しておく所存です。

さて、次の学習指導要領の告示は、来年３月末頃（高等部はこの１年後）を予定しています。そして、令和12年度から順次全面実施となります。ちょうど、中野特別支援学校が南台の新校舎に戻る予定の年です。

新たな教育の動向をいち早く知り、様々な準備を始めたいと考えており、この夏に、多くの研究会・研修会に招かれ、講師としても参加者としても、最新の教育の動向について学び、意見交換をする機会を得ました。

特別な教育的支援を必要とする児童・生徒は、特別支援学校や特別支援学級・通級による指導（特別支援教室）だけでなく、通常の学級にも在籍する現状は続くと予想されます。改定はここに焦点があたっており、全体の議論の方向性として、特徴的な部分は以下の点です。

○ 様々な面で配慮が必要な子供たちの在籍を前提として、全ての子供に対する多様性・包摂性を尊重した学習環境の整備
○ 全ての教育における合理的配慮の提供（学習指導要領に明記される予定です。）
○ 主体的な学びを支える、基礎的学習環境の整備（自己選択・自己決定できる学習やデジタル学習基盤）
○ 通級による指導と通常の学級での学びの連携の強化

知的障害教育特別支援学校である本校は、今年度自立活動の学習内容を意識した授業改善を重点にしています。前記の４つを叶える際に、知的障害教育における自立活動の位置づけを明確にした授業改善が求められると考えたからです。１年で一番長い２学期には、継続的・系統的に学習が積み上げられる時期になります。

現行の学習指導要領に則りながら先取りできることを進め、現代社会で生き生きと自分らしさを発揮できる児童・生徒を育てたいと考えています。２学期もどうぞ、よろしくお願いいたします。

『実りある２学期に向けて』

しいの木分教室副校長　　五十嵐　美雄

保護者の皆様には、夏季休業中の健康管理等に御協力いただき、ありがとうございました。

今年の夏も記録的な暑さが続き、全国各地で最高気温が40℃を超える「酷暑日」が観測されました。また、地震や豪雨などによる自然災害が発生し、一人一人の命を守ることについて、改めて考えることとなりました。特に、８月の千葉豪雨では、想定を超える雨量を観測し、甚大な被害がありました。しいの木分教室は被害がなかったものの、児童・生徒が安心して学校生活を送るために必要なことは何かを、様々な観点から見直しを図ります。

さて、２学期は、学習活動や行事、交流活動など、多くの経験を積むことのできる学期です。分教室では、10月に「防災デー」として、分教室の児童・生徒と、地域の自治会の方々や関係機関の方々と一緒に、起震車体験、消火訓練、避難所設営体験を実施する予定です。自助、共助、公助について、学校と地域とともに考えていきます。２学期は、子供たちが仲間と協力しながら新たな挑戦に取り組み、大きく成長する時期でもあります。一つ一つの成功体験を積み重ねながら、自分らしさを発揮し、実り多い学校生活にしてまいります。